

# 『さっきやま魂』

R5. 11. 29 第16号

発行人：校長 中山 末永

## 「笑顔」と「感謝」をつめこんだステージ ～崎っ子学習発表会～

11月26日(日) 第10回 崎っ子学習発表会を実施しました。本番に向けて毎日のように聞こえてきたセリフや歌声、その声からも、子ども達の強い思いが伝わってきていたので、「本番もきっと大丈夫」と思いながら発表会当日を迎えました。

いつものように元気な挨拶をして登校してきた子ども達、「いつもより早い登校」に、子ども達のやる気を感じ、ますます本番が楽しみになりました。

子ども達の発表を見ながらメモしたことをいくつか紹介します。

1つ目、「長いセリフ、よく覚えているなあ。」子どもの数が少ないので、一人一人の出番が多くなります。一人でいくつもの役をこなしたり、たくさんのセリフを言ったりするなど、覚えるのも大変だったと思います。また、それぞれの役に合わせた動きも工夫され、たくさんの人を笑顔にしてくれました。登場人物になりきり自信をもって表現できたのは、本番に向けて何度も何度も練習したからだと思いました。

2つ目、「みんな、大きな声が出ているなあ。」いつも大きな声を出している子どももいれば、普段は小さな声で話す子どももいます。恥ずかしがり屋の子ども、とても緊張する子ども、いろんな性格の子どもがいますが、本番のステージでは、全員が堂々とした態度・会場の後ろまで届く声で発表することができました。一人ひとりが、自分の役割を果たすために全力で取り組んだ結果だと思います。

3つ目、「自信に満ちた顔でステージに上がっていきなあ。」司会のアナウンスを聞いた子ども達は、自分の席を立ててステージへと向かって歩いて行きます。そのときの子ども達の顔が、きりっと引き締まっていて自信満々に見えました。緊張する気持ち、頑張ろうという気持ちなど、いろんな思いをもって本番に臨んだと思いますが、どの子どもの表情からも「不安」を感じることはありませんでした。練習の成果を披露できる喜びで、わくわくしていたのかもしれない。

4つ目、「反応が良いなあ。」それぞれの学年の発表に引き込まれている子ども達からは、「え～」という驚きの声、「やった～」という喜びの声などがたくさん聞こえてきました。反応できるということは、真剣に話を聞いているということです。そんな子ども達のお陰で、ステージ上の子ども達も自信をもって気持ちよく発表できたと思います。

発表会が終わり、体育館の入口に立っていると地域の方から声をかけられました。

「涙がでてくるよ。学校がなくなるのは寂しかねえ。」

一生懸命頑張る子ども達の姿を見ながら、なんとも言えない複雑な気持ちになったのだろうと思います。ふるさとの学校として、150年という長い期間、多くの方々に温かく支えられ・愛されてきた学校なんだと改めて感じました。



そのようなたくさんの方々のお陰に、残りの少ない時間をより大切に過ごしていきたいと思っています。

崎小最後の34名の子ども達を、これからも温かく見守り、力強く応援していただきますよう、よろしくお願い致します。